

## V 研究の成果と課題

### 1, はじめに

平成24年度栄養教諭を中核とした食育推進事業としての指定研究を受け、テーマ設定・テーマ分析研修計画立案・授業実践と取り組んできた。その中で、本校職員の食育指導に関する計画的な取組が始まり、職員、子どもたち共に食への意識はあきらかに高くなりつつある。職場における栄養教諭からの専門的な支援や助言などの恩恵を当たり前のように受けてきたことに気づき、あらためてありがたさを感じる。研究実践を始めてわずか半年ではあるが、本校がこれまで栄養教諭を中核とした食育指導の在り方について考えてきたことを、成果の一つとして提起したい。

### 2, 成果

#### (1) 「中核として」のとらえについて

本校では「栄養教諭を中核とした食育指導のあり方」について、①指導過程における栄養教諭の関わり方と②1単位時間における栄養教諭の出番の2点について明確にした。本校における栄養教諭の中核とは、授業者との共同者と考え、様々な場面での指導助言支援を受けていく。それらのあり方を、これからの授業展開において各学年が明らかにしていく。指導・助言、支援の形態として次の5点が考えられる。

1. 困りの解決、2. 思考の整理 3. 情報の収集 4. 技術の修練 5. 実践の評価

野上小においての栄養教諭の中核性とは、「その専門性や独自性を生かしながら、他の職員と連携協力し、食育の指導を行うことである」と考えた。そこで、これまで実際行った授業実践から指導・助言・支援の具体的な姿を上記5点より下記にまとめてみる。

### 指導助言支援のあり方5形態

	形態	内容
1	困りの解決	<b>課題解決を行うための支援を受ける。</b> ○ 個人の課題を解決するために、児童へ必要な資料提供や図書の紹介などの支援を行う。 ○ 栄養学的・食の専門性などにおいて、調査や調べ学習を行うときのポイントなどの指導や助言を行う。
2	思考の整理	<b>自分（児童）の考えを確認するために聞いてもらい、アドバイスを受ける。</b> ○ おやつ摂取の仕方や時間帯や量などのアイデアに対して助言を行う。 ○ 苦手な食べ物を克服するための調理方法について助言を行う。 ○ 改善した食生活について指導・助言を行う。
3	情報の収集	<b>学習に必要な知識や資料提供を受ける。</b> ○ 担任とのTT授業体制で効果的な資料の提供を行ったり、解説や説明をし、理解を深めたりする手助けをする。 ○ 教職員の教材分析につながる資料の提供を行う。
4	技術の修練	<b>調理実習などの技術的な支援を受ける。</b> ○ 調理実習などにおいて技術的なポイントやコツを行う。 ○ 家庭での習慣化を図るためにアドバイスをを行う。
5	実践の評価	<b>学んだことを生活に生かしよりよい食生活にするための評価を受ける。</b> ○ チャレンジウィークなどでがんばる子どもたちの実践について評価を行う。 ○ PTAの会議や広報活動で保護者や地域の啓発を行う。